

五泉市・阿賀野市・阿賀町一般廃棄物処理施設整備推進協議会
平成26年度 第6回検討委員会議事録（要旨）

日 時：平成27年2月6日(金) 午後1時57分～午後3時53分まで
会 場：五泉地域衛生施設組合 大会議室
出席者（敬称略） 委 員：吉田新平、小柳隆、鈴木良民、神田隆一、山田豊、矢部秋子、佐藤喜代治、渡邊景子、浅間信一、北村藤雄、清水常義、佐藤東市、植木誠、清野政勝、猪俣誠一、中野敬一、阿部信裕、星義孝、波田野貞夫、黒野弘靖、町田俊夫、杉山信二、関川嗣雄、渡部学、皆川秀男（委員27名中25名の出席） 事務局：清野室長、風間係長、肥田主任、土屋主任、松田主事 関係者：（専門部会）石垣一幸、西村和幸、井上也寸志、木村隆 八千代エンジニアリング(株)から3名
議 題：1. 第5回検討委員会の確認について 2. 一般廃棄物処理広域化実施計画（案）について 3. その他
議事進行 1. 開会 本日の会議には関係者として、専門部会である2市1町の担当者と委託コンサルタントが同席すること、また今回から会議の公開の取扱いにより傍聴を認め、取材のための写真撮影を許可した旨を説明して、出席した委員から了承を得る。 2. あいさつ 黒野委員長 3. 議事 (1)第5回 検討委員会の確認について 第5回検討委員会の議事録により、前回会議の内容を確認した。 (2)一般廃棄物処理広域化実施計画（案）について 委員長 それでは、①ごみ処理基本計画の基本的な事項、②のごみ排出量の将来予測を議題とします。 副委員長（A） 先回試算についての説明があったが、分別を増やすことによりCO ₂ 排出量が増えると思うが、それとの兼ね合いはどのようになっているか？ 事務局 まず、前回の資料は現行の2市1町の可燃ごみの収集運搬を行った場合のCO ₂ を

試算したもので、分別区分を増やすと収集回数も増え当然CO₂は増えるでしょうが、その試算はしていません。ここでは「ごみを減らしましょう」ということで、資料ではプラスチック製容器包装の資源化を設定していますが、これはあくまでごみを減量するならば何をどう減らせるか？を現時点で考えた場合の話なので、実際にリサイクル施設や焼却炉の方式を検討する際に再度議論することになります。その際に、プラスチックは燃やそうとなった場合には、資源化する対象を変更して減量目標を達成する方法を考える必要があります。

副委員長（B）

この将来推計において、平成 37 年度のリサイクル率が 2 市 1 町で違っているがどう
いう推計をしたのか？

事務局

平成 25 年度の 2 市 1 町の総排出量のうち、古紙、びんや缶類等の資源化した量の割合が 15.0%です。そして 2 市 1 町それぞれについて 21~25 年度までの実績を基に将来推計を行い、それを合計すると減量目標を達成した場合のリサイクル率 21.1%という数値が出るもので、2 市 1 町が共に 21.1%を目標に推計したわけではありません。

副委員長（B）

実績からの推計で、排出量もそれぞれ違うからリサイクル率も違うということか？

幹事（A）

例えば、五泉市のリサイクル率で言えば、25 年度 12.6%が、資料にある資源化の目安を達成すると 37 年度には 22%まで上がってくるということで、それらの原単位の目安が書いてあり、備考欄にはどのような目標設定をしたか根拠を記載しています。これはあくまでも現段階で考えられることであって、今後新たなリサイクル施設等の計画の中でさらに資源化できるものはないかを検討していくことになると思います。

副委員長（B）

このようにリサイクル率に違いが出るというのは、五泉市ではごみの排出量の中にはリサイクル可能なものが多いということか？

幹事（A）

そのとおりです。五泉市の資源化率は県内 20 市の中で最下位です。

委員長

ほかにありませんか。なければ、③推進に関する各市町の方策、④分別収集するごみの種類及び分別区分、⑤ごみの適正処理の基本的事項を議題とします。

委員（A）

3Rについてはライフスタイルの問題が関わってくるし、行政が3Rを進めても、実際に住民が動けるかどうかという問題がある。個別回収も一部でしかやっていない。そういう意味で、行政の努力が一番大事になってくる。ごみを減らせ、生ごみを捨てるな、と言うのはわかるが、実際にやるのは市民であってそのギャップをどう考えるか。分別については、区分が増えると毎日のようにゴミ出しをしなければならず、収集も毎日行うことになる。それよりも、大まかな区分で、リサイクル施設の中で分別作業をやる方がいい。

事務局

リサイクルセンターで分別するとなると、分別作業の人員が必要でその人件費が高くなり、住民から分別してもらえば収集の回数が増えるが、その分センターの人員は少なくできる、といったことも考え、収集業務については、分類をうまく組み合わせさせて効率の良い収集方法にするとか、資源化が進んでいる自治体を参考に拠点回収を増やすとか、そういう検討をした中で、「検討委員会ではこういう意見が出たので、これを踏まえて分別区分を見直すこと」というように提言をまとめたいと思います。

委員（A）

確かにリサイクルセンターでの人手はかかるでしょうが、集める方の人件費とどちらが高いかという問題になる。一つの市であればいいだろうが、広域になると収集の方にお金はかかる。

事務局

そういった意見が検討委員会ではありました、という提言書を作ります。

副委員長（C）

毎日ゴミ出しをするのは大変だ、という意見だと思うが、私は生活する中でそういう違和感はないが、住民がいかに出し易い分別を決めるかが重要だと思う。ゴミステーションを見ると、分別の徹底が十分に実施されていない現実があるので、そういうことを考えた方がいい。

事務局

そういった意見を基に、事務局で提言書をまとめたいと考えています。

委員（B）

この資料を見ると、いちばん分別数が多い阿賀野市の安田地区のリサイクル率が最も低い。逆に、いちばん分別数の少ない京ヶ瀬・水原・笹神地区が、最もリサイクル率が高い。収集の方法や処理の仕方を工夫すれば、リサイクル率を上げて分別数を減らすことができると思うので、事務局にはそういう検討もお願いしたい。

委員（C）

分別数が増えると、それだけ収集する車の台数が増えることになるし、距離が遠いと大変なので、分別区分は現状維持か、リサイクル施設での分別作業をしてもらう方がいい。

委員（D）

一人暮らしの老人世帯が、ごみステーションまで出しに行ける方法を考えることも必要だ。他県ではこういう試みが始まっている。分別に関しては、新しい方式を考えるのは必要だと思うが、視察に行った三条市ではプラスチック製品は可燃ごみとして、チラシや新聞紙などと一緒に出せるというのはありがたいと思った。一方で、紙は必ず十文字に縛らないといけないとか、燃えないごみに関してはすべて有料となっていてお金がかかる。そういったことを一つひとつやるかどうかは別として、統一した考えでやり直すというのは大事なことだ。

副委員長（A）

収集運搬については各市町で検討するということだが、新たな施設の場所によっても輸送コストが変わってくるので、それらの試算を整理しておいて欲しい。

委員（E）

廃棄物処理については同時にし尿処理業者の問題でもあるから、業者に収集台数を増やしてもらって、ごみの収集業務を牛乳配達のように1軒毎に戸別収集するような方法もあると思う。そうすれば、老人世帯でも家の軒先に出してもらうことで、収集が可能になるのではないかな。

委員（F）

我々がこの場で発言した意見は、どのように各市町へと反映されていくのか。

事務局

ここに出された意見を基に、ごみの減量化の方向性や施設計画、収集運搬をこのような形で進めていただきたいなどの意向を取りまとめ、27年度末に2市1町の首長に対し提言書を提出します。

委員（F）

ここでごみの減量化の数値目標を決めて、各市町にはその目標に向けてごみを減らすように提言するだけでよく、その方策についていつまでも議論する必要はない。2市1町の担当者もいるのだから、2年後に提言書を出して進めていくのではなく、平行して各市町から取り組んでもらった方が早く進む。

委員（G）

資料に「同一の処理施設のため排出形態を統一する必要がある」と書いてあるが、私は必ずしもそうではないと思っている。リサイクルが遅れている五泉市と進んでいる阿賀野市。2市1町の歴史やスタートラインも違うのに、すべて統一しようという本気度はどの程度あるのか。

委員（E）

これはまだ、阿賀野市に合わせるというわけではないですよ。五泉市に合わせてもいいのでしょうか。

副委員長（A）

広域による設備という前提で進めている議論だから、いろんな部門で統一する必要があるという方向性で進めていかないと、事業の進行が不可能になるのではないかと。

委員（G）

もう一つ議論が必要なのは、どこからどこまでの範囲で共同処理をするのかということで、どこまでが各市町の費用対効果でやる部分かという線引きが必要だ。すべてを共同で処理するというのであれば徹底的に話し合いが必要だし、そこまでの話でなければ努力目標で済む話だ。ぜひ、委員長から話を整理していただきたい。

委員長

2市1町で広域処理を考えていく場合、適正に処理するためとごみの減量に向けて統一する部分の検討は必要だと認識している。ただし、負担の大きい自治体があったり、その逆の自治体があったりしてはよくない。

副委員長（A）

先ほどの委員の質問は、排出の形態を統一化することによる行政負担と、そうでない部分の違いをどうしていくかということで、そこは各自治体に関わってくる問題なので、私たちとしては当然協議していかなければならない。

委員（E）

阿賀野市の課長に聞くが、収集運搬業者の車両の燃料費は、市と業者どちらが負担しているのか。

幹事（B）

ごみの収集運搬業務は民間業者に委託しており、燃料費も含めて委託料を支払い、業者の方で燃料費を出しています。

委員（E）

阿賀町の場合どうか。

幹事（C）

現状は阿賀町も委託方式を採っているの、燃料費は業者負担です。

委員（E）

燃料費込みで委託をしていると。だから、広域化すると阿賀町の負担が大きくなるというのも問題なのでしょう。

委員（G）

施設をどこにするかという議論にもつながる話だ。すべてを共同計算で賄うというなら話は別だが、収集運搬は別ということであれば施設は近い方が得である。

副委員長（C）

検討委員会が立ち上がる段階で、ある程度の方向性はすでに決まっているのでしょう。言える範囲で聞かせてほしい。

委員（A）

どのような施設を計画しているのか、具体的な施設のイメージが見えてこないから議論が先に進まないと思うので、事務局なり理事者会議なりで、早く方向性を出してもらった方が議論しやすい。

幹事（D）

どの場所にするかという案はありません。来年度に用地選定業務に取り掛かる予定です。収集運搬についてはこれまで各市町の負担となっており、広域化しても各市町が費用の負担をするという方向で考えている。

委員（H）

施設の場所がどこになるかはわからないが、地元の人たちに満足してもらえる条件でお願いしたい。例えば、施設の熱を切り花や園芸などハウス栽培に利用したり、リサイクル施設での分別作業やハウス・直売所での作業に知的障がい者から協力してもらったり、目先の施設だけを考えるのではなく、そういった先を見越した検討をしてもらえるとありがたい。

委員（I）

阿賀野市環境センターのところでも、40年ほど前に老人施設を建設するような話があったが、結局は立ち消えになってしまった。

委員長

ほかにありませんか。なければ、(3)その他に移ります。

(3)その他

事務局

事務局からは、このほかの議題はありません。

委員 (F)

検討委員会の以前の資料で、協議会の組織図では検討委員会と幹事会が意見交換をすることになっているが、これはどういう形で行われるのか。

事務局

事務局の見解としては、検討委員会に幹事が入っており、この会議の場で意見交換されているものと考えます。

委員 (F)

前にも話したが、確かに検討委員会に幹事が入っているが、幹事の発言が幹事会としての発言なのかはっきりしない。はたしてこれが意見交換と言えるのか。意見交換は、もっとざくばらんな話し合いが出来るほうがいい。

幹事 (A)

幹事が検討委員会のメンバーに入っていて、専門部会は2市1町の担当者ということで会議にも出ています。意見交換とまではいかないが、検討委員から出された意見を踏まえて、その都度事業の計画に反映していくということでご理解いただきたい。

委員 (F)

では、今まで話があった中で、処理方法や収集方法など我々の意見については、担当者レベルでも同時に進めていると認識していいか。

幹事 (A)

収集方法の基本的な考え方はここに記載してあります。さらに、今後は施設整備の在り様など具体的に検討する中で、分別や収集方法などについては変わってくる話だが、まだそこまでの議論ではなく方向性について話し合い、27年度にはこれらについて検討委員会で議論していくので、修正すべき部分は修正しながら諮っていきたいと考えています。

委員 (F)

先ほど話があったとおり、計画している施設の処理方式だとか施設の概要について、専門委員会なり幹事会で早く決めてもらって提示してくれると、もう少し早く話が進

むと思うが。

幹事（D）

広域化実施計画は今年度と来年度で策定して、28年度に循環型社会形成推進地域計画を策定することになるが、具体的な施設の規模や方式については整備計画や実施設計などもう少し先の話で、今回の計画はごみ処理に関する基本的な計画となります。

委員（G）

専門部会や専門委員会の人たちはスペシャリストなのだから、効率的な議論をするためには、そこである程度の姿・形を提示して、それについて我々検討委員がいろいろと意見を出して議論するのが歩むべき姿だと思うが。

幹事（D）

委員の皆さんにお聞きする焦点がぼやけているというのはご指摘のとおりですが、来年度には施設の整備計画も出てくるので、その中で焦点を絞りながら検討委員会で議論いただきたいと思います。

委員長

ほかにありませんか。なければ、以上で本日の会議は終了いたします。

4. 閉会